

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り複製および再配布することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

**クレジット：**

**UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2025S 石井 剛**



教養学部前期課程「学術フロンティア講義」／後期課程「高度教養特殊講義（東アジア教養学）」

# 30年後の世界へ

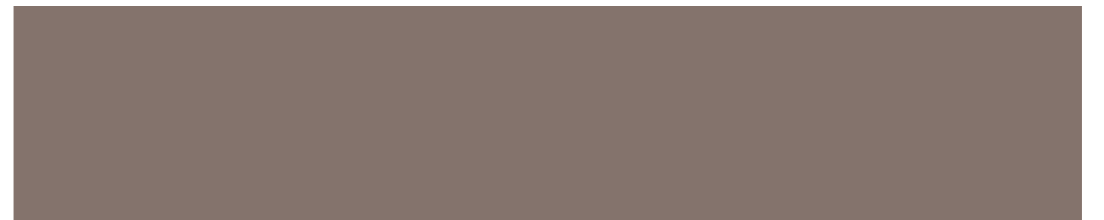
変わる教養、変える教養

第1回（ガイダンス）

2025年4月14日

# 東京大学 東アジア藝文書院

- 2019年設立
- 北京大学とのジョイントプログラム
- 東アジアからの新しいリベラルアーツ
- <https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>



E A A

EAST ASIAN ACADEMY  
FOR NEW LIBERAL ARTS

# 研究

世界哲学と  
東アジア

未来社会と  
環境・健康

世界史と  
東アジア

リサーチ・ユニット

世界文学と  
東アジア

藝文学

空気の  
価値化

# 社会 連携



EAA ユース  
教養学部後期課程  
「東アジア教養学」副専攻

# 教育



# EAAの教育

- EAAユース
- 後期課程副専攻「東アジア教養学」
- 北京大学とのSummer Institute



# EAAの社会連携

- ダイキン-東大産学協創協定
- リカレント教育
- 「新しい大学モデル」の創出



東京大学東アジア藝文書院・編 (2024)  
『裂け目に世界をひらく』東京大学出版会

東京大学東アジア藝文書院・編 (2025)  
『空気はいかに「価値化」されるべきか』  
東京大学出版会



# 30年後の世界へ

## 変わる教養、変える教養

- 「30年後の世界へ」
- 教養 (culture, kultur)
- liberal arts
  - ラテン語の「アルテス・リベラーレス (artes liberales)」
  - 「artes」はギリシャ語では「テクネー (technē)」に相当（「知識」と「技術」）
  - 中世の「自由七科」 修辞・文法・弁証法・算術・幾何学・天文学・音楽
- 東アジアの「六芸」：礼楽射御書数

# 30年後の世界へ—

## 変わる教養、変える教養

あなたはいまの  
教養に満足ですか？

教養学部前期課程学術フロンティア講義  
同後期課程「高度教養特殊講義(東アジア教養学)」

2025年度 S セメスター  
金曜 5 限 @ 18 号館ホール

# 東京大学教養学部

College of Arts and Sciences

- 1874年 東京英語学校
- 1877年 東京大学（予備門設置）
- 1886年 帝国大学、第一高等中学校
- 1894年 第一高等学校
- 1897年 東京帝国大学
- 1935年 駒場に移転
- 1949年 東京大学（教養学部）
- 1983年 大学院総合文化研究科
- 1991年 大学設置基準大綱化



# 一高と教養

哲学は吾人の有限を以て宇宙の  
無限を包括せんとする企図なり

岩元禎（1869-1941）（竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』より）

これからの教養？

# 30年後の世界へー

## インフラストラクチャーとしての人間

2025年度講義

「30年後の世界へーポスト2050を希望に変える」

# ポスト2050を希望に変える

東京大学東アジア藝文書院 (East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA) は2019年度から毎年、「30年後の世界へ」を共通テーマとしてこのオムニバス講義を開講し、様々な角度から「世界」を問うてきました。世界はわたしたちの外側にあるのではなく、わたしたちが世界を創っているのだと言えます。世界を問うとは、既成の価値を疑いながら未来に関与することです。問いは智慧を発動させ、その智慧を育むのが大学という場所です。この講義は大学の役割を行為的に表現し、大学の新たな価値を生み出す実験なのです。特に2023年度は「空気の価値化」という命題を学内外だけでなく社会と連携しながら問うてきました。

さて、30年後の世界はどうなっているのでしょうか。気候変動の影響を最小限に抑えるための目標として、多くの国々が炭素排出量実質ゼロ (カーボン・ニュートラル) 実現の期限に定めているのが2050年です。しかしその実現がきわめて難しいことはいまや半ば公然の事実になりました。たとえ目標が達成されたとしてもそれで気候危機が解決されるわけではなく、わたしたちはその後も長期にわたって、自らの文明が生み出した様々な災害——自然災害、戦争、圧政、貧困など——の中で生きていかなければなりません。わたしたちは、21世紀の後半に向かって、長い危機の時代を生きていくこととなります。これこそは、「30年後の空気」が規定するわたしたち人類の基礎条件です。そこで、2024年度は「30年後」を越えて、この「危機の空気/空気の危機」の中から希望を見いだすべく、以下の三つの柱を中心に皆さんと議論したいと思います。

1. **復興の技法**。人は他と共同しながらつねに自らを変容させ、成長していきます。危機を変容や成長を促す好機であるととらえるなら、「復興」とは人間の**変容と成長のプロセスそのもの**であると言えるでしょう。危機の中からわたしたちはどのような復興のあり方を想像するのでしょうか。またテクノロジーはどのような役割を果たすべきでしょうか。
2. **ロゴスの複雑化**。世界は分断の時代に入ったと言われます。20世紀までの世界を支えてきた政治制度の枠組みは地殻変動のように長期にわたる大きな変革を被りつつあります。いまの世界を構成している政治のロゴスは十全なものではないのかも知れません。**世界をあらわす(表す/現す/著す) ロゴスを豊かにすることが不可欠**でしょう。
3. **惑星時代の人間**。人新世や**プラネタリー・バウンダリー**などの概念は、近代的な人間観の改変を促しています。「人間」とは何か?この終わりなき存在論的問いを、人間を棲まわせているこの地球という環境との連続の中で再び定義することは可能でしょうか。可能であるとして、それはいかにして可能になるのでしょうか。

「30年後の世界」に希望をもたらすのは、他ならぬわたしたち自身です。皆さんと「問い」を共にして、この講義を**ポスト2050に向けた希望**の出発点にしたいと思います。

2024年度 S semester

教養学部前期課程学術フロンティア講義  
同後期課程「高度教養特殊講義 (東アジア教養学)」

アテナイの皆さん、私は他でもない、ある知恵のゆえに、この名前を得ているのです。それはどんな知恵でしょう。おそらく人間的な知恵でしょう。本当に、この点では私は知者なのかもしれません。

プラトン『ソクラテスの弁明』

# 享受の快

## ——カントと嗜好品

國分功一郎  
総合文化研究科  
哲学

4月18日



30年後30歳になる  
君たちに90歳にな  
る私ができること  
——新しい発達科学の創成

開一夫

情報学環／総合文化研究科  
発達認知科学・赤ちゃん学

4月25日



# 教養の力で変 える未来

——インクルーシブな  
社会の実現に向けて

細野正人

総合文化研究科

認定精神保健福祉士

5月2日



# 脳を変える教 養、AIに変え させない教養

酒井邦嘉

総合文化研究科

言語脳科学・脳計測科学

5月9日



壁を越える力をい  
かに身につけるか  
——専門家のためのリ  
ベラルアーツ

藤垣裕子

本学理事・副学長

科学技術社会論・科学計量学

5月16日



# Ideas for A Changing World --Reconceptualizing Myriad Things

宋冰 (Song Bing)

バーグルエン研究所中国セ  
ンター主任

5月30日



# The Personal Voice in What It Is To Be Classical --The Essay As Form And Content in World Literature

張旭東 (Zhang Xudong)

ニューヨーク大学

比較文学・東アジア研究

6月6日



# 孤独者の教育

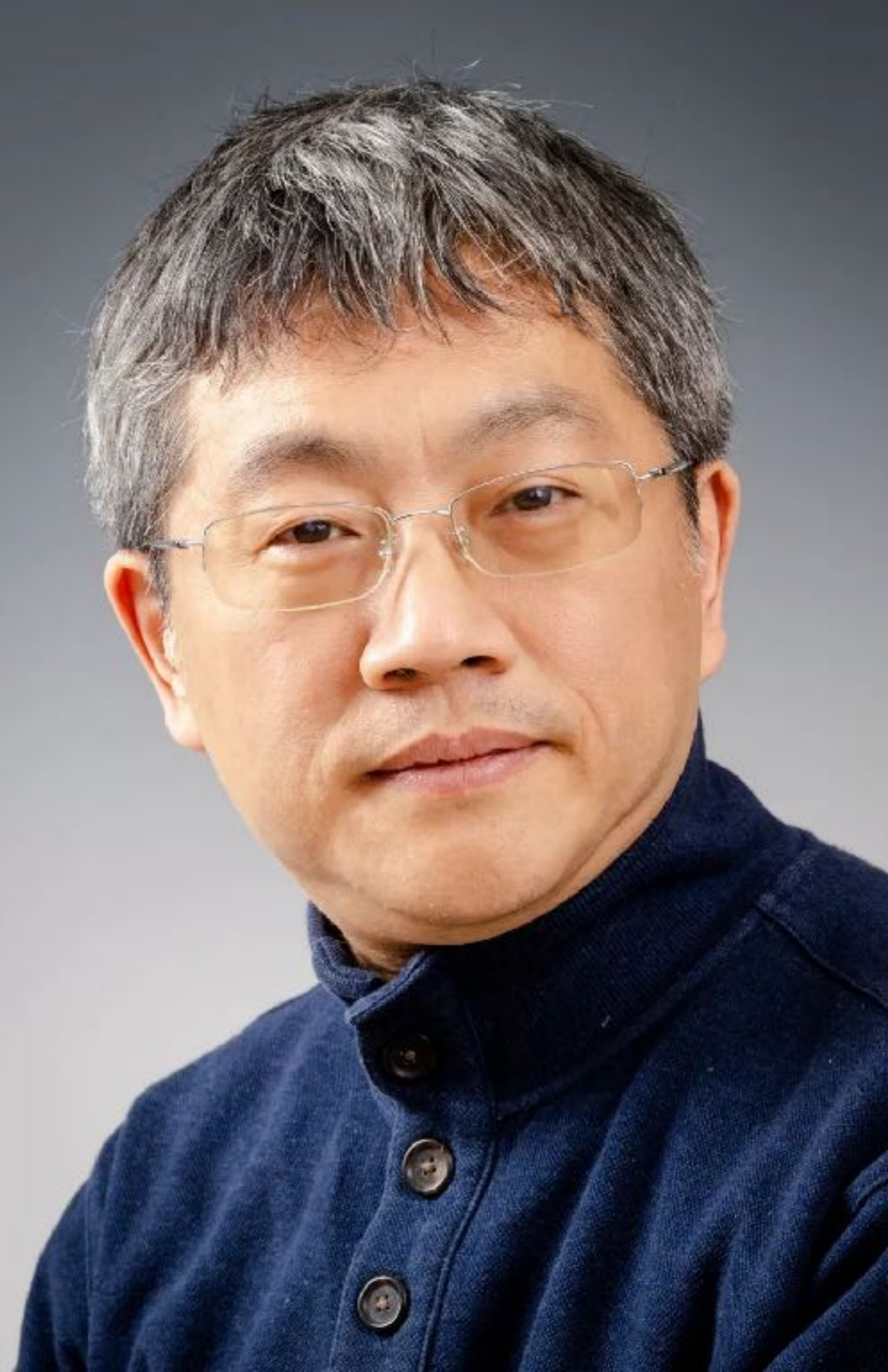
## ——技術世代の生命 体験と世界イメージ

李猛 (Li Meng)

北京大学

哲学

6月13日



# 学問の開放性 と横断性

梶谷真司

総合文化研究科

哲学・比較文化

6月20日



# 教養と政治哲学

——レオ・シュトラウス  
を手がかりとして

王欽

総合文化研究科

比較文学

6月27日



# 古典の最終章 を書く

中島隆博

東洋文化研究所長

中国哲学・世界哲学

7月4日



# 「文理融合」 とは何の謂か ——「脳化社会」の教養

石井剛  
総合文化研究科  
中国哲学

7月11日

